

令和7年度 第2回 草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和8年3月24日（火）14時30分から16時00分

場 所： 草津市役所4階 行政委員会室

出席委員： 藤田委員、小沢委員、塚口委員、矢田委員、益川委員、神田委員、御園生委員、黒川委員、望月委員、村田委員、吉川委員（11名出席）

欠席委員： 三浦委員、崎山委員、先川委員、中西委員、深見委員、白波瀬委員、南委員、川上委員、山内委員

事務局： 健康福祉部 板垣理事、宮嶋総括副部長、松尾副部長、事務局、岡田課長補佐、河上主査、長寿いきがい課 田中課長補佐、健康増進課 上野係長 草津川跡地整備課 森課長、公園緑地課 梅原課長補佐 幼児課 堀江課長補佐、まちづくり協働課 山本係長 都市地域戦略課 西尾主査、農林水産課 小川主査、商工観光労政課 堤主任

傍聴者： なし

次 第：

1 開会

2 議事

1) 令和8年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組について

・・・資料1

2) 株式会社平和堂との健幸都市づくりに関する協定の締結について

・・・資料2

3 閉会

○ 議事

1) 令和8年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組について

【事務局】

<資料1に基づき説明>

【副委員長】

ただいまの説明を受け、委員同士での意見交換をさせていただきたい。意見交換は、個別事業に対する行政への要望ではなく、今回学識経験者、公募市民の方、各団体の代表の皆さんに来ていただいているため、それぞれの立場で意見をいただければと思う。

ただいまの説明に関して質問・意見等あればお願いしたい。せっかく来ていただいているのでぜひ発言一回はお願いできれば。

【委員】

近畿総体・ワールドマスターズゲームズ開催（3ページ）に関して、ワールドマスターズゲームズ開催及び受入れにあたって先に行われた国スポのためにハード面の施設整備等を主にされていると思うが、ワールドマスターズゲームズは多くの国の方々が訪れるため、普段から国際交流やいろんな国から観光客が来るという印象があまりない草津市は、多言語対応や施設の国際的な対応という部分をどのようにされるのか気になった。

草津市の組織図の中でも国際交流課というものがないように思われたため、どのように対応されるのだろうか。

【事務局】

ワールドマスターズの詳細については把握してはいない。国際交流という点でどれぐらい配慮しているのかということかと思うが、今具体的にこういった配慮をしているということや、こういった方向性で進める、というのを私の口から申し上げることが難しいが、そういう意見があったということをお伝えさせていただいた中で、そうした取り組みの方にも目を向けていただければと思う。

【委員】

3ページの、道の駅草津リノベーション推進費について、農業振興や地方創生の拠点ということだが、主にどのような感じで今計画が立っているか教えていただきたい。

【事務局】

道の駅草津の現在のリノベーションに関する状況は、予算としては3ページに実施設計費と書かせていただいている。これの前段として、令和7年度に基本設計業務を行った。

まず、ハード整備の方で大枠を決めさせていただいた段階で、併せて、売り場が手狭であるとか、駐車場が不足しているというところがハード面での主な課題になっていた。さらに設備の老朽化等もあったため、まずはそのあたりを改善し、単純ではあるが売り場を広げることによって農業者の方、生産者の方に、よりたくさん農産物、特産物を出荷していただきたいというところが現時点で大きな目標になっている。

これから令和8年度実施設計を進めていくのと並行し、リニューアル後の運営面で、お店の運営、施設の維持管理含めてスタッフの体制、それによってどういうイベントや仕掛け作りができるかという部分も詳細を詰めていきたいと思っており、その中で地方創生の拠点形成となるような仕掛け作りを定めていきたい。

【委員】

駒井沢の地域づくりを一緒にやっているクリニックのドクターと先程喋っていたところ、道の駅や琵琶湖博物館もそうだが、あれだけ観光客が来るのにレストランがない等意見がどんどん出て、参考にレストラン系もまた工夫していただくとありがたい。

【委員】

私の発言は、都市計画とか交通計画とかそういった視点から。

推進委員会の名称にも載っているように「健幸都市づくり」とは、「健幸」と「まちづくり」とが重なっている。例えば、10ページを見るとまちづくりとか交通とか、観光に重点を置いたような記述になっており、観光はもちろん大切なのだが、健幸都市のまちづくりという観点から見れば、「一般市民の方が気楽に出歩く」、そういう視点が必要だと思う。

交通社会実験と書いてあるが、シェアサイクルとか、グリーンスローモビリティとか、若干関係ないわけではないけれども比較的抵抗少なく出歩けるようなまちを目指すのが「健幸都市づくり」ではないか。そういう公共交通云々というものが一言も出てこないというのはちょっと寂しく感じた。

草津市も、コミュニティーバス（まめバス）の維持に多額の費用を使っておられるわけだから、そういったところとうまく連携しながらやった方が、この計画がより着実なものになるのではないかな。

【事務局】

交通の考え方で、健幸都市の基本計画の中に入っているコンパクト・プラス・ネットワークを実現の足がかりとしてパーキングエリアを整備していきたいという思いを持っての事業であるため、十分ではないのかもしれないが、そういった交通を含めたまちづくりという観点でこの10ページの草津のパーキングエリアを設定させていただき、とりあえずこれを来年度に関しては健幸都市作りの一事業として、ここに掲載させていただいた。

【委員】

例えば、滋賀県の方でも交通税という話をしている。

ここで掲げている事項は、言ってみれば交通と福祉の境界の部分が多い。福祉と交通は別物だが非常に密接に関係をしていて、どこからが交通として扱って、どこからが福祉として扱うかという部分のところははっきり分けられるものでもないし、そのあたりのことが非常に今後重要になってくると考えられるため、今事務局がおっしゃったような視点から計画を充実させていただければ結構。

【委員】

各事業は各事業でいいが、それが2ページにある基本方針の目標にどういうふうに関わってくるのかが明確に見えない。おそらくこの目標を向上させるために各事業があるという建付けになると思うが、それに対してどういうふうに寄与するのかを次年度以降で記載して、健幸都市づくりにこういう面からこの事業は意味があるのだということを明示した方がおそらく混乱がないと思う。

あと、草津市としておそらく足りないであろうところは、今回あまり出てこなかったが世代を超えた繋がりとか孤立を防ぐような形のまちづくりの話。本来、心の健康とか活動とかそういったことを考えるのが重要だとは思いますが、あまり表に出てこないためどこかで出した方がいい。

もう一つこどもに関して、ここ数年間、体験格差が大きくなっているということをあちこちで言われている。やはりこどもの育った家庭環境によってお金がかかるようになり、体験できる・できないという差が大きくなっていくことによるこどもの心の健康という視点もどこかで設けていただいた方がいい。

【事務局】

資料の建付けについて、今回はそれぞれのキャッチフレーズごとに分けて掲載しているため、小沢委員の仰るようにそれがどういう目標に結びつくためのものなのが見えにくいという点は、また次年度以降の資料の作り込みの方で工夫していきたい。年度当初の第1回目ときには成果を報告させていただくので、塚口委員よりいただいた意見等、皆様の意見を踏まえながら、見ていただきやすく評価していただきやすいような形に作っていきたい。

世代を超えたつながりとか孤立を防ぐということ等は、それぞれ施策の方で展開しているが、やはり健康に引っ張られすぎた説明になっているところもあるため、もちろん紐付く部分もあるがしっかりと見せていけるような形をとっていききたい。

【事務局】

一点補足として、先程委員からご発言のあった体験格差の点について、今回示している資料は令和8年度の予算に載っているものが主なその資料の構成になっているが、今年度のこども若者部の方の取り組みということで一点だけご紹介させていただく。

今年の2月15日に、障害児や医療的ケア児を対象としてイオンシネマの映画館を一コマ貸し切って映画の上映会を行った。その趣旨は、きょうだい児の方も含めて普段なかなか映画館に行く体験ができないお子さんや保護者の方を集め、みんなで一緒に上映会をするという体験をした。

当日来てくださったお子さんたちは草津市の方だけではなく非常に楽しんでいただけ、こども若者部としてはそういった体験格差、どんな境遇・状況にある方にも様々な体験してもらおうということは引き続き留意しながら取り組みを進めてまいりたいと思う。

【委員】

健幸都市づくりの宣言があったときのコンセプトの中に、草津市が、野菜を摂取する量が日本の中でも結構少ない、地域的には農業振興ができていっている地域であるのにその接種がないということで、野菜の食に関する項目というのは結構入っていたと思うのだが、野菜や米等を積極的に草津市民が取っていく項目がなく、これから大きくなっていくこどもたちに「食が大切なのだよ」という食育を含めた部分の概念がここの中に入っていないのが残念。

今回令和8年でやっていこうと思うのは、例えば、老朽化した体の健康に培ってきた部分の整備をもう一回しましよとか、ロクハのプールを直しましよとか、そういうのは当然してもらわなくてはいけないが、根本的な食の健康についての部分を。

農業の振興をすれば健幸都市に近づくのかというのが、もう一つ前の段階でせっかく草津にしっかりした礎があるのにそれを守っていたり、それを利用していたりというのが書けていないのは残念に思う。

【事務局】

ご指摘いただいた野菜接種量については、市の方で第3次健康草津21といういわゆる健幸づくりの計画に合わせた食育推進計画の中に、食育であったり、野菜摂取量の増加であったりということについては位置づけながらの推進をさせていただいている。

野菜摂取量の部分については、1日350gということを言われている中で、令和4年度の現状値にはなるが約250g弱とかなり少ない値となっているため、市としても市民の皆様野菜摂取量というところを推進していけるように、例えば令和7年度の取り組みでは、食堂運動プロジェクトとして市内の飲食店の方々にご協力をいただきながら、野菜接種を進められるようなメニューをご提供いただき、市の方で広報活動をしなが、市民の方が自然と野菜接種を進めていただけるようにといった事業も実施している。

【事務局】

「くさつ健幸ガイドブック」付帯の基本方針の方にも全世代共通の健幸づくりの中に栄養食生活というものが入っている。10ページの一番上の1番に栄養食生活というものがあり、取り組みの方を進めている。

今回見ていただいている資料は、主な予算概要というような形で、主なもので拡大とか新規というのを中心に挙げさせていただいているので外れてはいるが、例年、第一回目のこの推進委員会ではそれぞれの事業の実績という形で上げさせていただくので、先程健康増進課の担当から説明させていただいた食育推進事業とか健康啓発推進事業等はそちらで記載をし、ご説明させていただきたいと思う。

【委員】

この10ページ3番の内容として、びわこ文化公園都市部の交通社会実験の中で、シェアサイクルというものが含まれているが、誰が使うことにニーズがあり、誰が喜ぶのだろうというのが気になった。どういう意図があってシェアサイクルになったのかお伺いしたい。

【事務局】

まず、そもそも県の実験として、フォレオからびわこ文化都市公園を通過して、若草、大津、青山、松が丘までをバスで繋ぐ「横繋ぎバス」というバスの実験を県が行う。その中で市の事業として、例えば、各バス停からグリーンスローモビリティ（ゴルフカートのようなもの）を使って若草内を巡る社会実験と、先程おっしゃってくださったびわこ文化都市公園の中をシェアサイクルで回る社会実験の2つを考えている。

主な利用者は、若草、青山、松が丘にお住まいの方がフォレオへ行く際に横繋ぎバスを使っていた過程で、都市公園で降りていただき、都市公園内を巡っていただくような形で利用を考えているため、特段ピンポイントでこの層を狙いたいというよりはその周辺にお住まいの方に利用していただきたいと考えている。

【委員】

「草津パーキングエリア周辺における」と書いてあったため、もしかしたら市民じゃない人たちも対象なのか、そちらに目を向けられているのかと私は解釈をしていたが、その周辺にお住まいの人ということか。

【委員】

先程も少しだけお話があった障害者福祉に関して、ガイドブックや取り組みとかにも障害者福祉に関する内容がないと思ったのだが、先ほどのお話であったみたいに、映画館での取り組みというの、健幸都市づくりに関連した事業として挙げられるのではないか。

なぜ幅広い世代とか全世代共通の健幸作りというのがあるのにも関わらず、障害者福祉

という観点にあまり目が向けられていないのか疑問に思った点。

あとは少し意見として、高齢者のためのeスポーツ大会であったり、健康マージャン交流会を行って社会参画を目指そうという取り組みがあるので、障害者の方々に対しても、例えば草津市には最先端の体育施設というのが何ヶ所もあり、そういったところはバリアフリー等整備・設備が整っていると思うので、そういった部分を生かして何かインクルーシブなスポーツ交流会であったり、パラスポーツ体験会とかそういった部分でも障害者の方々の社会参画というのは目指せるのではないか。

【副委員長】

とても貴重なご意見だと思う。おそらくこの会議体で全ての市の取り組みを紹介していただくということはなかなか難しい。委員からもご意見があった、人と人が出会えるようなモビリティの部分というところも含めて今回ご紹介いただいていると感じる。その中でイベントがたくさんあって人がそこに出向くという形の中でも、健康増進という一つの見方かと思う。

最終的にはご指摘あったように、基本方針の目標にやはりそういった形で評価できるかできないかというのは、とても大事な観点だと思うので、また次年度に成果の報告があるということでまた議論できればと思う。

○ 議事

2) 株式会社平和堂との健幸都市づくりに関する協定の締結について

【事務局】

<資料2に基づき説明>

【委員】

私が所属している食マネジメント学部が平和堂と連携をしている。その中で、健康に関わる取り組みもしており、平和堂のお店を利用し、そこで買うものを日常的に食べ続けることによってその人が意識しなくても健康になれるような店はできないのかという実験的なことをやっており、おそらくそういった意識しないで健康になれる食生活を実現するといったところでもいろいろと平和堂と協力ができるのではないかと。

平和堂全体で何かをするとすると、やはり量がないものはなかなか出せないとかそういったようなことになるのだが、ただ一方でどこかの店舗で限定してやるというような話になると、それはそれで、そこまで規模がなくてもできるようなこともあるので、その点も含めて調整かとは思いますが、例えば農産物の規模感については私よりも吉川委員の方がおそらく詳しいとは思いますが、結構そういったようなところもあるのでいろいろと調整していただけたらと思う。

【委員】

実際に平和堂が他の自治体と連携した実績があって草津市もそうしようとしたのか、草津市が先進となって平和堂と協力しようとなったのか経緯を教えてください。

【事務局】

今回の協定に関しては平和堂の方からのお声掛けで、例えば防災に関する分野の限定的な協定とか、あるいは高齢者の見守りという点での協定というのは、県内の別の市町で結んでおられる事例はあるが、今回の広く健幸づくりという協定は、県内の市町ということで平和堂は後々広げていきたいと思いをもちますが、まずスタートとして草津市を選んでいただいた。それは健幸都市づくりというのを草津市が進めているというのをアナウンスし続けてきたこともあり、一旦草津市の方でまず始めてみようということで今回お声掛けをいただいたものである。

【副委員長】

スポーツ健康科学部も以前、特定の平和堂で運動指導や体力測定イベントは実施させていただき、イベントの実施に関しては、やはり地域連携をかなり注視されているためかなり協力的というか、全面的にサポートいただけた。

今回の協定を通じて様々な草津市で実施されているイベントを、平和堂で実施することで本当に多くの方にアクセスしやすい場所でもあり、情報発信の場にもなりうるのかと思うので、個人的にはすごく素晴らしいなと感じている。

【委員】

平和堂とのコラボレーションに関して、平和堂は普通の主婦にとってもすごく身近なので、こどもにもわかりやすいような案内もしていただいたらより幅広く広まるのではないかな。

資料1の議題の内容もちょっと被るが、万博や国スポ等に平日参加するときに、滋賀県は欠席扱いにならないようにしていただいていたのが、すごく母たちから好評でありがたかったので、今後もそういったスポーツの観覧とか、何かイベントに参加しやすい環境になるためにもぜひその体験の日は継続していつてもらえるとすごくありがたい。上限が何日かとか、申請書とかもあったと思うが、平日にしか休めない親御さんもいて、実際万博に行くときそれを利用してありがたかった。

学校から国スポ・障スポの大会が、5・6年だけしか行けなかったのだが、それも全校のみんながまんべんなく行かせてもらえる機会があればいいと思う。

【委員】

国スポ・障スポは、草津市で開かれて40何年ぶりの大きな大会だったので、市民の皆さんのおかげで非常に盛り上がり、競技等のトッププレーヤーを身近に感じていただいたという点で、非常に盛況に終わったのではないかと考えている。

あとは施設をどのように市民の皆さんとともに使っていけるかが、これからの課題だと思う。皆さんに使っていただきやすいような施設作りを考えていきたい。

【委員】

私は老人クラブの代表で来ており、草津市は14学区あるが、老人クラブに入っておられるのが6つしかない。他の地域は老人クラブがないという状態。各町内ではやっておられるが、学区や市に入っておられないということで、市の行事とか、今もあったマージャン教室も市と老人クラブがメインになって募集をかけたが、市の老人クラブに入っていない地域の方は参加できていない。そういう方をいかに参加してもらうようにするかということをやれば、もう少し人数も増えてくるかなと思うのだが、老人クラブに入っていない地域の方はこういう行事に参加できないみたいな形があるため、そういう部分をいかに市の方と連携しながらやっていけたらいいかと思う。

また、マージャン教室以外にも、今明治安田生命が塗り絵教室というのをやっていて、人前に入るのは嫌だという方でも家の中で塗り絵とかを書いて提出していただくという形で、できるだけそういう方も参加できるように考えて、市と一緒に何かやっていけたらと思う。

【委員】

平和堂との協定の話に戻るのだが、先程委員さんからもお話あったように、やはり食べるもので身体が作られると思うので、せっかく滋賀県内にいっぱい店舗があって、身近な存在の平和堂と協定を締結されるということであれば、草津市の地場野菜とかのコーナーを、売り場の関係も難しいとは思いますがもう少し広げてもらうなどして、せっかく農業とか盛んだと思うので「滋賀県の」とか「草津市の」お野菜等を身近にすぐには買えるような環境作りを一緒にしていただけたらすごくありがたい。

【委員】

私達若い層からすれば、日常使いするのは平和堂とか西友とかそういうお店よりも、どちらかというと駅等の方が毎日使っていて、駅は毎日使わないような高齢者がよく使うお店で実施されるというのはとても素敵だと思う。

(4)について、相互に関連する健康データや購買データの段階的共有というのが、購買データに関しては共有というよりも一方的に提供してもらうということになると思うが、健康データというのは、市から平和堂に何か提供されるのか。それとも平和堂から一方的に健康データをもたらすことを目的とされたのか。まだ読み取れないのだが、平和堂が高齢者の集まる場所になったら良いとは思いつつ、かつ、健康データをご老人が楽しみながら平和堂で入手するみたいな、静脈とか顔の写真を個人の判断で撮らせてデータを送らせて何か解析するみたいな、ゲーミフィケーション的な取り組みがあったら素敵だと思っているのだが、この健康データというのは、提供してもらうことを前提として相互共有することを目的としているのかお伺いしたい。

【事務局】

(4)の項目自体がまだまだこれから先のことだと思っており、その先に今思っているのは、市が持っている健康データを、もちろん個人情報に関係するところは伏せたうえで、平和堂の方にお渡しして、逆に平和堂は地域性があるためそれぞれの店舗の購買傾向等があるはずなので、健康データとその購買データを組み合わせていく中で、この地域ではこういう買い物をされている方がこういった課題を抱えておられるのではないかとというようなことを読み解いていって、じゃあその地域にはどういったアプローチができるか。なかなか個人に対するアプローチは難しいと思うが、その地域性というのを掴んだ中でのアプローチにお互いが持っているデータが役に立つのではないかとこのところで、将来的にこういうことができたらいいいというビジョンとして書かせていただいた。

【委員】

今回平和堂から提案があったということで、平和堂としても何か売り上げや利益に繋がるようなことをしたいと読み取るのが普通かと思うが、例えばこれがデータを共有したことによって、こういった不健康に繋がるような商品を置いた方が平和堂の利益に繋がるとか、草津市がやりたいことと平和堂の利益が合わなかった場合はどうしたいかを考えているのかお伺いしたい。

併せて、平和堂がなぜ提案されてきたか、裏の意図とかどういった背景があるのかというのを草津市としては考えているか、受け取っていただいておられるかをお伺いしたい。

【事務局】

まず平和堂は、中期計画の中でこの地域密着ライフスタイル総合企業というのを目指しておられることにより、健康づくりの取り組みをされるということが前提で、裏の意図というところではなく前向きに健康づくりを意識していただくということ。

購買意識が高まると売り上げに繋がるということはもちろん出てくるかと思うが、やはり健康を意識して健康づくりによって地域で長く過ごしていただく方が増えると、その店舗に行って買い物をされることで利益に繋がると考えているので、そういう点はもちろん企業としてはあるかとは思いますが、まずは地域が健康になるということを、地域に根ざした企業として取り組みをしたいという点であるので、本市としてもその思いを汲み協定を締結する形になっている。

【副委員長】

平和堂と協定を結ばれると、今既にタニタ、オムロンとも協力されているということで、既に設置されている測定機器とかも平和堂に置いていただくとさらに市民のデータが集まり、様々なデータの取得から健康増進に繋げるという可能性はすごく広がると思ったので、様々な観点ですごく将来が楽しみな協定になると感じた。

【委員】

やはり高齢者の方が結構平和堂に行かれるので、市の持つておられる血管年齢とか、そういうものの測定を定期的にあそこでやっていただくと、おそらく買い物ついでにそういうのをやってみようかという方が数多くおられると思うので、そういう部分もまた考えていただければありがたい。僕らは地域ではそういうものを行っているが、平和堂の方がたくさんお客さんがおり、市もその方がたくさん測定できると思うので検討していただきたい。

【事務局】

平和堂は、ベジチェックというどれだけ野菜を摂取しているかを測定する機械をお持ちで、平和堂と当市の人とくらしのサポートセンターとで連携事業として各店舗の方で測定会というのをさせていただくことも実際にある。

今までは、測定会に来られた方のお話を聞いてというものだったが、各店舗で、例えば、その地域においてちょっと運動不足の方が多いとか、血圧が気になる方が多いというのが見えてきた部分については、地域の特性を生かしたようなアプローチができないかということでも市も動かさせていただいたところではあるが、多分なかなか皆さんへそういう情報が届いていないのではないかと思うので、せっかくさせていただいている事業のため、周知啓発の方に力を入れ皆さんに参加いただくように考えていきたい。

【委員】

まめバスについて、下笠関係なのだが非常に利用者が少ないと思う。

なぜかという、駅に行くのに下笠をぐるりと回ってからでないで駅に行けないということで、乗ってしまうと時間的におそらく30分ほどかかってしまう。普通のバスだと乗ってすぐ駅へ直行なので、ルートを検討していただかないと利用者が少ない。検討課題と思う。

【事務局】

本日交通政策課の職員の方は出席していないが、全て健幸都市づくりに繋がる意見のため、今いただいた意見については、望月委員の意見以外の部分についてもそれぞれの担当課の方に共有させていただきたい。

【副委員長】

健幸都市づくり推進委員会とは、様々な部署の職員の方にもご参加いただいて総合的にこの健幸都市づくりを進めていくということで、本当にいろんな活動が集約されているところになるため、なかなか全ての情報をここで皆さんに見ていただくというのは難しいと思いつつ、本当にたくさんの事業を今年度実施し、次年度以降も都市づくりというか、建築の観点からも人と人が集まる場所とか、様々なアプローチをされていると感じている。

本日様々なご意見をいただき、イベント的なところを、これから本当にたくさんの方が観光も含めて草津市に足を運んでこられる中で、こういった形で草津市としての健幸というものを市民にまず理解いただいた上で、草津市がモデル都市として、他の県や都市で真似ていただけるような素晴らしいモデルになっていければと思っているので、引き続き皆さんのご意見ご協力をお願いしたい。

他ご意見なければ、以上で議事は終了になるが、議事録の内容に関しては一旦事務局の方で取りまとめていただいた上で、私の方で確認させていただきたいと思うが、その点一任いただいてもよろしいか。

【委員】

第1号議案の中身をずっと読ませていただいた中で、10ページの③の部分だけは健幸都市づくりの費用を使ってすべきことだろうか。パーキング基本構想がノーではなくて、そこに健幸都市づくりの費用を使うのはどうなのだろうと、この内容を読んでも自分の中で腑に落ちないところがある。シェアサイクルとかグリーンスローモビリティとか、びわこ文化公園都市内で実験することについては別に違和感ない。どちらかというところ、ここの主な内容に書いてあるのはゼロカーボンシティ草津推進費の中の取り組み費用という形にまとめても問題ないというように思う。3番だけどういう解釈の仕方をして戻っていくのがパーキングの基本構想の推進費になってしまうので、草津市民のことも全体を考えた実験という話になってきたら、4番が3番になって、その取り組みとして、資料が足されても問題ないというように思う。パーキングの基本構想を否定しているわけではなくて、その費用の使い方がちょっと違うような感じがしてならないということ。

もう一点は、平和堂とのこの取り組みは非常に市も既にタニタとか、明治安田生命とかやってくれている実績があるのだが、一応行政が知りえた情報を一般の会社と共有することについては大きい目標とか目的とか大義がないと私は非常にどうだろうと思う。協定を結んでいただいて進めることは非常にいいことだが、行政サイドで渡したことに對する、ちゃんと出来ているか、草津市が思っているようなことにちゃんと使われているのか、そういうことを検証する建付けみたいなものが、既に過去に協定を結んでいてくれるのであると思うが、そこだけはきちっと整えておいた方がいいのではないか。

【事務局】

こちらに挙げさせていただいている事業は、例えば健幸都市づくりの推進費という中で、それぞれを回して行っている事業ではなく、それぞれの担当課が、先程副委員長がおっしゃっていただいたように、健幸都市づくりは部局横断的に実施しているため、それぞれがこの取り組みを考えている事業の中で、健幸都市にどういうふうに関わっていくかという建付けでさせていただいているところがあるため、これは草津PAの基本構想推進費についても、行動変容に関わるまちづくりという形で健幸都市とコンパクトシティとか、4番でしたらゼロカーボンシティというのはそれぞれ市が目指している共通側面があるというふうな形で実施をしているところである。

平和堂の方に市の情報提供という部分は、もちろん平和堂だけに限らず市の情報提供をするということは安易な形ではできないので、平和堂の部分については先程提供しますという話を事務局が説明したが、どのような形で掛け合わせをしていくかというのはこれからは、既に別のところで、例えば市のデータを活用して連携で調査をしている部分については、吉川委員がおっしゃるようになりしっかりと文章の契約等を結びながら進めておるので、目的を持った形とその成果を必ず出していただくような形を持って活用を進めていきたい。

【副委員長】

では進行の方を事務局にお返しする。

【事務局】

委員各位におかれては、活発な議論をいただき感謝申し上げます。今年度の委員会については全て終了となる。委員各位におかれては、任期が令和10年6月30日までとなっているため引き続きよろしくお願ひしたい。

また、来年度については、第1回目を夏ごろに開催する予定であるため、改めて案内させていただきます。

3 閉会